2023年産 富富富栽培こよみ（JA米）

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会
JAアルプス富富富ブランド化推進協議会

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

高品質な富富富につなげる５つのポイント

- ●5/15中心の田植えに合わせた育苗作業
- ●初期茎数の確保
- ●生育ステージに応じた水管理
- ●適期防除
- ●適期刈取り

収量構成の目安 (540kg／10a)

収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	400
一穂籾数(粒)	75
㎡当たり籾数(粒)	30,000
登熟歩合(%)	80
玄米千粒重(g)	22.3

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月

生育ステージ：育苗期 → 5/15 田植 → 活着期 → 有効分げつ期 → 無効分げつ期 → 7/13 幼穂形成期 → 穂ばらみ期 → 8/4 登熟期 → 成熟期 9/14

作業日程の目安

葉色の推移（葉色カラースケール）：4.5 → 幼穂形成期 4.0 → 4.0 → 4.2 → 穂揃期 4.4

5/15 田植えの場合 → 浸種 4/15 → 播種 4/26 → 搬出 4/29 → 5/15 田植え → 除草剤散布 → 軽い田干し → 6/3~5 溝掘り → 6/10~15 中干し → 6/20頃 加里散布 → 7月上旬 一斉草刈り → 7/20 穂肥① → 7/27 穂肥② → 随時防除 → 8/4 出穂期 → 防除① → 防除② → 9/5~7 落水 → 9/14 刈取り

品質向上は土づくりから

【土づくり資材の施用】

資材名	標準施用量(kg/10a)
粒状ケイカル	200
元気	100
シリカロマン	100
シンキョーライトP	100

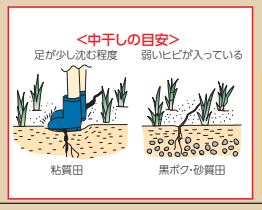
■秋耕しの実施
稲わらは秋のうちに5～10cm程度浅めにすき込む

草刈りの目安：1回目（田植期） → 2回目 → 3回目 県下一斉 → 4回目 → 5回目① → ①又は② → 5回目②

水管理

水管理の目安
①生育初期の浅水管理
②田植後４週間までの中干し
③中干し後の間断かん水
④幼穂形成期後の飽水管理
⑤出穂後20日間の湛水管理
⑥収穫5～7日前までの間断かん水

長期間の深水だと分げつの発生が少なく、ひょろひょろで倒伏



〈間断かん水（例）〉
乾きやすい圃場
入水→自然落水→3～4日落水
乾きにくい圃場
入水→自然落水→5～6日落水

【飽水管理の方法】
3cm程度入水後→自然落水→足跡の水がなくなる前に入水（出穂始め頃まで繰り返す）

3cmの湛水状態

収穫5～7日前までの間断かん水で登熟向上・品質向上

【間断かん水の効果】
①土壌に酸素と水を供給して根の発達を促す

【飽水管理の効果】
①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料持ちを良好にする

浅水管理で水温を上げる～初期茎数の確保～ | 溝掘り・中干し～適期に遅れず～ | 間断かん水～発根促進～ | 飽水管理～窒素の吸収を促し葉色を確保～ | 出穂後20日間の湛水管理～稲体の活力維持～ | 間断かん水～品質の向上～

やや深水 浅水管理（3cm程度） 溝掘り 中干し 間断かん水（落水期間が長め） 飽水管理（常時湿潤状態を保つ） 湛水管理（出穂後20日間は田面を出さない） 間断かん水（田面の足跡に水が残る程度）

時々水を入れ替える　こまめに入水する

管理のポイント

土づくり
- ●稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。
- ●土づくり資材や堆肥を施用する。
- ●1.9㎜のふるい目を使用し、選別を徹底する。
- ●水分14.5～15.0%に仕上げる。

適正な乾燥調製
- ●籾黄化率80～90%頃に刈り取る。

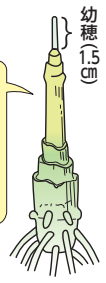
適期収穫
- ●フェーン時はあらかじめ入水する。
- ●刈取り予定日の5～7日前まで間断かん水を行う。

収穫までの水管理
- ●生育ステージに合わせて防除を実施する。

基本防除2回の徹底
- ●2回目は傾穂期
- ●1回目は穂揃期

出穂後20日間の湛水管理
- ●葉色が淡い場合は、出穂前に追加穂肥を施用する。
- ●2回目穂肥は1回目穂肥から1週間後を目安に施用する。
- ●1回目穂肥は幼穂長1.5㎝と葉色を確認してから施用する。

適正な穂肥
- ●幼穂形成期から飽水管理。
- 草刈りを終える。
- ●7月上旬までに畦畔や雑草地の草刈りの徹底
- ●6／20頃に「エスアイ加里らくだ」または「珪酸加里」を施用する。
- ●中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。



溝掘りは確実に
- ●活着後は、浅水管理をする。
- ●植付深さは3㎝。
- ●植付本数は株当たり3～4本。
- ●栽植密度は坪当たり70株を確保する。
- ●苗箱施薬による防除を実施する。
- ●基肥は基準量を施用する。

中干しは適期に開始
- ●田植後4週間までに遅れずに開始する。
- ●5mに1本を目安に溝を掘る。

田植えは5月15日を中心に
- ●搬出直後から換気の徹底。
- ●田植時期に応じた計画的な育苗を行う。

健苗育成
- ●代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。
- ●ゆっくりと耕起し、作土深を15㎝以上確保する。

耕起・代かき
- 確実に施用する。
- ●秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を

土づくり

4月26日を中心とした播種

○5月15日を中心とした富富富の田植えに合わせ、**播種日は4月26日を中心**とする。
○**育苗日数は19日以内**を目安とし、老化苗の発生を防止する。

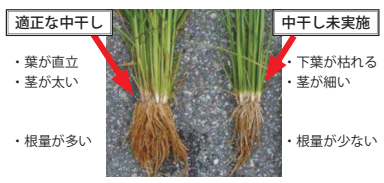
浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/6 頃	4/19 頃	5/10	8/1 頃
4/15 頃	4/26 頃	5/15	8/4 頃
4/24 頃	5/3 頃	5/20	8/7 頃

育苗日数が19日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる！

栽植密度は **70株/坪**

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○**中干しは田植後４週間までに遅れず開始することで根の伸長を促進します。**
○**中干しの効果を高めるため、中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう**



中干しの有無による稲の姿

乗用管理機での溝掘り

土壌に応じた適正な施肥量

施肥窒素量は、収量レベル540kg/10aのコシヒカリの２割減を基本とし、過剰とならないようにしましょう。

土壌区分	肥効調節型肥料 肥料名	施用量(kg/10a)	分施体系〔基肥＋穂肥２回〕 基肥 肥料名	側条施肥 施用量(kg/10a)	穂肥 肥料名	施用量(kg/10a) 1回目	2回目
砂壌土	富富富専用 (21−10−19)	30	基肥206 (12−20−16)	27	追肥３号 (15−3−15)	5～7	10～13
壌土 黒ボク土		25		21		5～7	10～12
粘質土		22		19		5～7	10

病害虫防除・雑草防除体系

富富富の化学合成農薬（殺虫殺菌剤及び除草剤）の成分使用回数は12以内です。以下の３タイプの防除体系を参考にして、適期防除をお願いします。

①一般タイプ

区分		薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数
病害虫防除	種子消毒	モミガードC水和剤	浸種前	200倍液（種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100g）	ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病 もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病 苗立枯病（トリコデルマ菌、リゾープス菌、フザリウム菌）	2
	苗箱施薬	ルーチンアドスピノ箱粒剤	播種時～移植当日	50g/箱	いもち病、もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ、フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ	2
		又は ブイゲットパディート粒剤	緑化期～移植当日			
	本田防除（粉剤）	ラブサイドキラップ粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル粉剤DL	傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
	又は 本田防除（液剤）	ラブサイドフロアブル キラップフロアブル	穂揃期	1,000倍液 150ℓ/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル液剤10	傾穂期	1,000倍液 150ℓ/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
雑草防除	初期剤	マーシェット 1キロ粒剤 漏生籾対策	移植後3～5日まで	1kg/10a	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発処理剤	エンペラー1キロ粒剤（エンペラージャンボ）	初期剤散布7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ ウリカワ等	3
					合計11成分	

②省成分タイプ

区分		薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数
病害虫防除	種子消毒	テクリードC フロアブル	浸種前	200倍液（種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100cc）	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病 苗立枯病（リゾープス菌、トリコデルマ菌）	1
	苗箱施薬	フェルテラ箱粒剤	播種時～移植当日	50g/箱	ニカメイチュウ、コブノメイガ フタオビコヤガ、イネツトムシ イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	1
	本田防除（粉剤）	ラブサイドキラップ粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル粉剤DL	傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
	又は 本田防除（液剤）	ラブサイドフロアブル キラップフロアブル	穂揃期	1,000倍液 150ℓ/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル液剤10	傾穂期	1,000倍液 150ℓ/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
雑草防除	初期剤	マーシェット 1キロ粒剤 漏生籾対策	移植後3～5日まで	1kg/10a	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発処理剤	エンペラー1キロ粒剤（エンペラージャンボ）	初期剤散布7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ ウリカワ等	3
					合計9成分	

③紋枯病常発地タイプ

区分		薬剤名	使用時期	使用量等	対象病害虫・雑草	成分数
病害虫防除	種子消毒	テクリードC フロアブル	浸種前	200倍液（種子10kgに対し水20ℓ、薬剤100cc）	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病 苗立枯病（リゾープス菌、トリコデルマ菌）	1
	苗箱施薬	ブーンレパード箱粒剤	播種時～移植当日	50g/箱	いもち病、紋枯病 イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ	3
	本田防除（粉剤）	ラブサイドキラップ粉剤DL	穂揃期	4kg/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル粉剤DL	傾穂期	3kg/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
	又は 本田防除（液剤）	ラブサイドフロアブル キラップフロアブル	穂揃期	1,000倍液 150ℓ/10a	いもち病、カメムシ類 ウンカ類	2
		スタークル液剤10	傾穂期	1,000倍液 150ℓ/10a	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1
雑草防除	初期剤	マーシェット 1キロ粒剤 漏生籾対策	移植後3～5日まで	1kg/10a	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ	1
	一発処理剤	エンペラー1キロ粒剤（エンペラージャンボ）	初期剤散布7～10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田１年生雑草、マツバイ ホタルイ、ミズガヤツリ ウリカワ等	3
					合計11成分	

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう！